

学会記事

§ 2015年度春季大会報告

1. 2015年度春季大会は3月30日(月)に宇都宮大学において盛会裏に行われた。前日の29日(日)には、編集委員会、産学交流促進委員会、国際交流委員会、将来構想委員会、若手幹事会、理事会が、当日には一般講演、学会賞選考委員会、評議員会、常務理事会、総会、ランチョンセミナー、優秀発表賞授与式が行われた。

(大会委員長 菅原邦生会員、一般講演55題、参加者180名)

2. 理事会・評議員会および総会で報告、決定された主な事項は以下のとおりである。

(1) 大会関係

○2015年度秋季大会は、酪農学園大学において9月9～10日に開催される予定である。

(2) 賞関係

○審査員の評価に基づいて常務理事会で審議した結果、2015年度春季大会では、第1会場：小野貴史会員「ニワトリQTL解析を行うための肉質分析～核酸関連物質について～」および濱野貴仁会員「ファブリキウス嚢を除去した超低濃度IgYニワトリの産卵能力と卵黄へのIgY輸送能」、第2会場：松野良平会員「鶏の慢性暑熱ストレスに対する電解還元水とセレン酵母の同時給与効果」および高橋孝介会員「クリ樹皮のカンピロバクターに対する抗菌性」にそれぞれ授与することが決定され、総会終了後に授与式が執り行われた。

○平成27年度日本家禽学会賞および奨励賞には、学会賞および奨励賞候補者に各1件の推薦があった。現在、選考委員会において審査中である。

(3) 日本農学会関係

○平成27年度日本農学大会は平成27年4月5日(日)に東京大学山上会館で開催された。また、平成27年度日本農学会シンポジウムは東京大学弥生講堂において「国際土壌年2015と農学研究—社会と命と環境をつなぐ—」というテーマで開催される予定である。

(4) 日本学術会議関係

○第23期日本学術会議畜産学分会から協力依頼があれば対応することとした。

(5) 産学交流促進委員会関係

○平成26年9月27日(土)に公開シンポジウム「産官学連携等による肉用鶏産業の展開—鹿児島島の事例—」を開催

した。

○賛助会員の企業案内等の配架を継続して行った。

○平成27年9月9日(水)に公開シンポジウム「肉用鶏生産におけるアニマルウェルフェアの現状と課題(仮題)」を開催する予定である。

(6) 日本家禽学会将来構想委員会関係

○会員数の増加を目指した活動を行っていく。特に、今回新たに制定された海外会員、シニア会員および学生会員の増加策を検討する。

○国際的な情報発信を行うために検討していく。編集委員会と合同で、PubMedへの掲載、研究倫理の問題を整えていく。

○将来的な国際学会の開催を国際交流委員会および若手研究会と議論することを始める。

(7) 国際交流委員会関係

○第10回アジア太平洋家禽学会(APPC)に参加した若手会員の渡航費の一部補助を行う(3名)。補助金の支給はJPSへの投稿を確認した後に行う。また、この大会のコングレスバッグに学会・JPSの宣伝を印刷したリーフレット1,000部を入れてもらい、本学会の宣伝を行った。

○WPSA ニュースレターに海外会員枠を設けた旨のアナウンスと入会の呼びかけを行っている。

○第25回世界家禽会議(2016)は北京で開催予定である。

○第11回アジア太平洋家禽学会(APPC)(2018)はバンコクで開催予定である。

○第26回世界家禽会議(2020)はパリで開催予定である。

(8) 広報委員会関係

○学会とJPSを広報する英語版のリーフレット2,000部を作成した。

○学会ホームページのデザインを更新した。

(9) 若手研究会関係

○平成27年度春季大会でランチョンセミナー「題名：採卵鶏育種改良の現状と種鶏輸入の裏話」を開催した(3月30日(月)、出席者 約60名)。

○平成28年度春季大会でランチョンセミナーを開催する予定である。

(10) 家禽学用語集編集委員会関係

家禽学用語集第1版を編集して学会ホームページに掲載し、現在、会員からの修正を継続して受け付けている

(11) 会員の移動

平成27年2月28日現在の会員状況

(平成26年2月末日からの増減)

名誉会員	10名	(-1)
A会員	134名	(+4	-13)
B会員	197名	(+20	-21)
A学生会員	14名	(+6	-2)
B学生会員	45名	(+33	-38)
合計	400名	(+63	-75)
A賛助会員	24社	()
B賛助会員	11社	(+1	-1)
賛助会員合計	35社	(+1	-1)
総計	435	(+64	-76)

なお、総会までに新会員制度であるシニア会員の入会があったことが報告された。

(12) その他

○外国人特別会員の発足にともない、大会要旨に英文タイトルを掲載することを検討することが承認された。同様に、各賞の受賞タイトル、シンポジウムのタイトルなどの英文タイトルに関しても検討することにした。

○会費の未納者に関して、現在の規約では「除名」となっていたが、処分が厳しすぎるとの意見があり、「強制退会」との文言に規約を変更することを検討することにした。

○会長より今後の大会の開催予定が以下のように紹介された。

2015年度秋季	酪農学園大学
2016年度春季	日本獣医生命科学大学
2016年度秋季	静岡大学
2017年度春季	神戸大学
2017年度秋季	信州大学
2018年度春季	未定（畜産学会開催場所を予定）
2018年度秋季	東北大学
2019年度春季秋季	未定（畜産学会開催場所を予定）

(13) 編集関係

○The Journal of Poultry Science 誌第51巻2～4号、第52巻1号、日本家禽学会誌51巻J1・J2号、ニュースレター14・15号、講演要旨2冊（春季大会号・秋季大会号）を発行した。

○The Journal of Poultry Science の2014年インパクトファクターが公開された（IF=0.787）。

○倫理上の問題を整えるために、JPSの投稿規程に動物実験に関する規定を加える予定とした。

○和文誌は、産業界や県の研究者・技術者との連携を強化するための方策の検討を開始した。

○海外の非会員著者からの掲載料を確実に回収するために、page chargeの支払いを確認後にacceptを出すシス

テムに変更し、そのシステムが上手く機能していることが紹介された。

○分野の再編やPubMedへの申請などに関して検討を進めることとした。

(14) 会計関係

○平成26年度の一般会計の決算報告書が承認された。また、平成26年度の国際家禽会議記念基金特別会計および西川畜産奨学特別会計の決算報告書がともに承認された。

○平成26年度の一般会計および特別会計決算書の収入および支出の細目について勘定明細書、預金帳簿残高、など照合のうえ監査を行った結果、いずれも適正に運用されており、法的にも問題のないことが監事から報告された。

○平成27年度の一般会計予算案および平成27年度国際家禽会議記念基金特別会計予算案および西川畜産奨学特別会計予算案が、審議の結果原案どおり承認された。

○科研費補助金（研究成果公開促進費）「学術刊行物」に関して、平成27年度までの交付が内定している。本年度に科研費申請（新規）を行わなければいけないが、国際情報発信力強化を中心に検討しなければいけない。AAAPでの提案型シンポジウムの提案やPubMedへの申請などの事業計画を、会長、常務理事、国際交流委員会、編集委員会で連携して立案し、申請することとした。

§ 2016年度日本家禽学会賞および同奨励賞候補者の募集について

2016年度両賞の受賞候補者推薦を募集します。締め切りは2015年12月31日（木）で、期日までに選考規程を参照して候補者の推薦をお願いします。なお、奨励賞については2016年4月1日現在において、満40歳以下の方が対象となります。

§ 日本家禽学会技術賞候補者の募集について

日本家禽学会技術賞候補者の推薦を受け付けておりますので、奮ってご推薦下さい。なお、技術賞の受賞の対象は、日本家禽学会細則第3条の(4)により、「家禽産業の発展に寄与する新技術を開発した者あるいは新技術および新発想を積極的に経営に導入し成果を上げている者」となっております。推薦者は日本家禽学会の会員に限りますが、候補者はこの限りではありません。

推薦時に必要な書類：

①候補者（団体の場合は代表者）の氏名、生年月日および所属、候補者の略歴（表彰歴を含む）（団体の場合は団体名および設立年月日）、推薦者の氏名および所属を示すもの。

②業績概要（2,000字以内）

③業績内容を示す資料：研究業績（別刷）、経営資料、特許、実用新案、公刊図書など。（別刷またはコピーを7部

添付。ただし、業績が 5 編を越える場合は主要なもの 5 編の別刷りまたはコピーで可。)

候補者推薦の締切：2015 年 7 月 31 日（金）（当日消印有効）

書類の送付先：

〒305-0901 茨城県つくば市池の台 2
畜産草地研究所内 日本家禽学会事務局

§ 日本農学賞受賞候補者の推薦について

日本農学会から平成 28 年度の日本農学賞受賞候補者の推薦依頼がある予定である。下記の要領によりご推薦下さい。

提出書類：

- 1) 推薦書：候補業績、候補者氏名、所属および職名、
候補者略歴（生年月日、学歴、職歴）、推薦理由
- 2) 業績概要：業績題目、所属、図表および主要研究業績
詳しくは日本農学会ホームページ <http://www.ajass.jp/> を参照して下さい。

締 切：2015 年 8 月 31 日（月）必着

提出先：日本家禽学会事務局

§ （財）農学会農学進歩賞候補者の推薦について

人類と多様な生態系が永続的に共生するための基盤である農林水産業およびその関連産業の発展に資するために、農学の進歩に顕著な貢献をした者に対し、標記の賞が授与される。受賞対象者は当該年度の 10 月 1 日時点で 40 歳未満の者となっている。農学進歩賞には、大学の学部長、研究機関の長、あるいは農学系学協会の長が毎年 1 名に限り推薦できることとなっている。日本家禽学会長の推薦を必要とする方は、2015 年 6 月 30 日（火）までに必要書類を日本家禽学会事務局に提出して下さい。日本家禽学会常務理事会、理事会等で審査を行い、推薦の可否を決定する。詳しくは（財）農学会のホームページ <http://www.nougaku.jp/> を参照して下さい。